

田名散策マップ

歴史探訪 水緑ふれあい

平成30年3月
田名地区まちづくり会議

田名散策マップについて

田名地区は、相模川や八瀬川、河岸段丘に緑豊かな豊かな自然環境に恵まれ、この豊かな自然の中で育まれた古代からの人々の生活様や、田名原遺跡や鳥山浦水などの歴史的文化遺産、田名八幡宮「的景」などの伝統行事が多く残されています。一方、田名工業団地、テクノビル田名を中心とした先進的な工業をはじめ、優良農地を利用した都市農業や、「相模原涼水大会」。「泳げ舞のぼり相模川」など、相模川を中心とした観光などが特色としてあげられる地区です。

「田名地区まちづくり会議」では、田名地区の魅力の発信・健康づくりの促進を目的として、魅力ある田名の発展・歴史・史跡などを取り込んだ散策マップを作成するようになりました。(相模原市地域活性化事業交付金を活用しています) マップの作成については、相模原市特有の散策路(横浜水道緑道・相模川散策路)を軸に、田名地区特有の史跡・景観資源を活用し、田名の歴史コース(4コース)、水・緑ふれあいコース(2コース)を設定しました。

田名歳時記



田名の歴史 (Aコース)	田名の歴史 (Bコース)
1 田名まちづくりセンター (田名公民館) 田名4834 昭和55年竣工、鉄筋コンクリート造2階建 1,577㎡ D-4	1 不動尊 千葉原成田山にある成田不動(新勝寺)をお祀りしたといわれる不動尊です。不動とは不動明王のごことで、仏様の人、大目如來を尊を思はしめるため稲の圃に変わったものといわれています。 D-2
2 三角山公園 敷地の形から角山と呼ばれるようになりました。昔は「お天宮祭り」が行われたといわれています。今は公園として整備され、日清戦争・日露戦争から第二次世界大戦の戦士の戦没者の慰霊碑が建てられています。 D-4	2 清水地区石仏群 不動様の近くに、1784(天明4)年の地震様として地神様、神母様、釈迦尊、六地藏、二十三夜尊、大山遊の道標、三ヶ所権持菩薩など、地域の石造物が集まっています。川のな四ツ谷に供養費の石があるのも不思議ですが、かつては梅雨時に畑から野水と呼ばれる湧き水が溢れ、それを防ぐ水路が何本も掘られ、その水路に横がけられました。毎日まいりと初詣、9月の第1土曜日の祭礼が盛大に行われています。 D-4
3 田名中学校 田名5250-1 1947(昭和22)年 開校 D-4	3 地神様 この大きな石は相模川から背負われてきたものといわれ、石の表には「地神様」と刻まれています。地神様は、江戸時代の終わり頃に湧出したの神を祀る信仰の場で、地神調と呼ばれる神間によって建てられました。 D-2
4 石神社 社は、東湯相模原八瀬川の四ツ谷交差点にあり、四ツ谷の守護神として信仰されています。境内には地神様、神母様、釈迦尊、六地藏、二十三夜尊、大山遊の道標、三ヶ所権持菩薩など、地域の石造物が集まっています。川のな四ツ谷に供養費の石があるのも不思議ですが、かつては梅雨時に畑から野水と呼ばれる湧き水が溢れ、それを防ぐ水路が何本も掘られ、その水路に横がけられました。毎日まいりと初詣、9月の第1土曜日の祭礼が盛大に行われています。 C-4	4 観音堂 (清水自治会館) 自治会館の左に観音堂が祀られています。この観音堂は聖観音といわれ、昔山に背負われて来たと伝えられています。堂の裏には、1761(宝暦11)年の徳名の供養塔である無縁塔などが並んでいます。 D-2
5 相模電気鉄道跡(跡地) 今から約90年前、東京の渋谷から世田谷、溝の口、鶴川、淵野辺、上溝、田名、愛川を結ぶ鉄道の計画がありました。が、関東大震災に襲われ中止されました。その後2回再開されましたが、1928(昭和3)年の経済不況の波を受け、1935(昭和10)年に元の地主に返還され、1944(昭和19)年に会社は解散しました。在名35.58基地付近(東湯相模原八瀬川を四ツ谷交差点から上溝に向かい、銀行を過ぎて左折した右側)に線路の敷設跡が残されています。 C-4	5 清水取水口 相模原幹線用水路は、田名の清水湧首工から当麻地区までの全長約5.1kmの用水路で、望地地区約18haと区麻地区約24haの水田のための農業用水路です。当初の取水口は、江戸時代に建設された鳥山用水の田名の海地区にあります。その後明治末期にその上流、田名の清水地区にも設けられました。1967(昭和42)年に清水下の自動車が完成し、取水口は現在の1ヶ所になりました。 D-2
6 国道129号 (上溝バイパス) 国道129号は、平野の国道134号と相模原市の国道16号(橋本五差路)を結び、延長31.5kmの県央を南北に走る大動脈です。新昭和規格が昭和55年5月に最終区段が完成し、国道129号全線が供用開始されました。また、4車線整備は、作の区間での完成により、平成2年度に全線が完成されました。 A-4	6 清水取水口 相模原幹線用水路は、田名の清水湧首工から当麻地区までの全長約5.1kmの用水路で、望地地区約18haと区麻地区約24haの水田のための農業用水路です。当初の取水口は、江戸時代に建設された鳥山用水の田名の海地区にあります。その後明治末期にその上流、田名の清水地区にも設けられました。1967(昭和42)年に清水下の自動車が完成し、取水口は現在の1ヶ所になりました。 D-2
7 メタセコイア白濁り 1994(平成6)年、相模原市では、遊路に親しみを持っていただくために、市内の15路線に遊路の樹木を植栽しました。全長813mの全線に遊路メタセコイアが植えられているため、「メタ」を地名の白濁りの「白濁」を結んで「メタセコイア白濁り」の愛称になりました。 A-3	7 徳本念仏尊 坂を下りはじめ、滝と清水に向かう道の分かれたところに、徳本行者の念仏尊があります。徳本は1758(宝暦8)年に肥田国(和歌山県)の白鳥に生まれ、25歳で仏門に入り、諸国を巡り各地に念仏を広めました。相模原市には晩年の1817(文化14)年11月に訪れています。 E-3
8 田名工業団地の出現 1955(昭和30)年、相模原市は「工場立市」の旗印を掲げて、工場誘致策を制定しました。田名地区にも工業団地の開発を計画し、土地の買収と団地造成を行いました。1963-64(昭和38-39)年に団地造成を行い、完了とともに三菱重工及び関連の工場が完成しました。1992(平成4)年には、50社を超えました。 B-2	8 おひのりの碑 伝説によれば、昔戦いに敗れ敵に連れられたお姫様の一行が、ここまで逃げたことでめでたきとめでたきと、村人によって尊られ、祀られたといわれています。これは、雨乞いの行事は反対の雨乞い降り続いた時、早く晴れるようにと願う天宮祭りの行事が行われたといわれています。 E-3
9 内山玄貞様の碑 1819(文政2)年に田名村葛輪に生まれ、聡明の尊高く鳥山愚庵林等の住職になり書生筆を習得しました。その後学問を志し江戸へ出て商家で書生として住み込み勉強に勤めました。天保の末、葛輪に帰り農家の子孫にも読み書き算盤を必書と考え、農業を習わかわら。自宅でも多くの子ども達に教えていました。1872(明治5)年の学制発令後も患えられない子ども達に教えていました。1867(明治元)年には教子達によって碑が建てられました。 A-2	9 馬頭観音 馬頭観音は、愛馬の事故を悼んで大正時代に建てられた観音様です。事故が起こりやすい坂道などには他の地区でも見られ、田名地区内におよそ60基あります。 E-4
10 金刀比羅宮 昔は一族の守護神として祀られていたものとされています。一般に金刀比羅宮は交通安全の神として信仰されています。現在は自治会が1月の第2日曜日(祭礼)に行われ、葛輪の家ではお札と牛支札を授けり自らの神棚に祀ります。祭りの日は、境内でくし引・餅つき・だんご焼きが行われ、地域住民の楽しみの日となっています。 A-2	10 馬頭観音 馬頭観音は、愛馬の事故を悼んで大正時代に建てられた観音様です。事故が起こりやすい坂道などには他の地区でも見られ、田名地区内におよそ60基あります。 E-4
11 観音堂(石神社) 田名2797番地の三角形の土地に、明治から昭和にかけて道路改良工事のために敷設していた石仏が集まりました。地蔵菩薩、六地藏、常夜尊、庚申塔、光明菩薩尊、馬頭観音、崇徳権持(日蓮戦争記念)などがあります。石造物の中には、5,000年以上前の縄文時代中期の遺物、石棒も保存されています。 A-1	11 稲荷神社(稲之内自治会館) 稲之内自治会館の隣に稲荷神社があります。この地は昔稲荷社の敷地でした。今は高影山の祠の中にお祭所跡と金毘羅様と一緒に祀られています。高影山は養蚕の神として信仰を集め、相模原市では、江戸時代の終わり頃に各地で盛んに行事が行われていました。 E-4
12 農業振興地域 市町村の農業振興地域整備計画により、農業を推進することが必要と定められた地域です。農業以外での土地利用が厳しく制限されています。 A-1	12 稲荷神社(稲之内自治会館) 稲之内自治会館の隣に稲荷神社があります。この地は昔稲荷社の敷地でした。今は高影山の祠の中にお祭所跡と金毘羅様と一緒に祀られています。高影山は養蚕の神として信仰を集め、相模原市では、江戸時代の終わり頃に各地で盛んに行事が行われていました。 E-4
13 相模水道緑道 1887(明治20)年に敷設された相模原市の横浜水道緑道は、南上り約47目から中央区田名内までの12.2kmを、平均12mの幅員で市域を横断しています。この緑道は、市民への有効利用を図るため、1982(昭和57)年に横浜市と「横浜水道道の使用に関する協定」を結び整備されました。 D-3	13 稲荷神社(稲之内自治会館) 稲之内自治会館の隣に稲荷神社があります。この地は昔稲荷社の敷地でした。今は高影山の祠の中にお祭所跡と金毘羅様と一緒に祀られています。高影山は養蚕の神として信仰を集め、相模原市では、江戸時代の終わり頃に各地で盛んに行事が行われていました。 E-4
14 田名北小学校 田名1932-1 1978(昭和53)年 開校 D-3	14 稲荷神社(稲之内自治会館) 稲之内自治会館の隣に稲荷神社があります。この地は昔稲荷社の敷地でした。今は高影山の祠の中にお祭所跡と金毘羅様と一緒に祀られています。高影山は養蚕の神として信仰を集め、相模原市では、江戸時代の終わり頃に各地で盛んに行事が行われていました。 E-4
15 田名郷内団地 平成3年竣工、平成5年完成 3棟120戸 D-3	15 稲荷神社(稲之内自治会館) 稲之内自治会館の隣に稲荷神社があります。この地は昔稲荷社の敷地でした。今は高影山の祠の中にお祭所跡と金毘羅様と一緒に祀られています。高影山は養蚕の神として信仰を集め、相模原市では、江戸時代の終わり頃に各地で盛んに行事が行われていました。 E-4

田名の歴史 (Aコース)	田名の歴史 (Bコース)	田名の歴史 (Cコース)
1 田名八幡宮 水原田名1-8-28 田名八幡宮は、平安時代のはじめ、798(延暦17)年から天地大神様が祀られていたといわれています。その後、江戸時代に入った1649(慶安2)年に八幡宮を本社にあらため、將軍家光から6石1斗の社格を安堵されたといわれています。例年1月6日に行われる「的景」は相模原市の無形文化財に指定されています。また1月1日には大祭といわれる本社八幡宮のお祭り行われます。1974(昭和49)年に復活された獅子舞が今も奉納されています。 F-4	1 不動尊 千葉原成田山にある成田不動(新勝寺)をお祀りしたといわれる不動尊です。不動とは不動明王のごことで、仏様の人、大目如來を尊を思はしめるため稲の圃に変わったものといわれています。 D-2	1 田名の歴史 (Cコース) 1 新田小学校 田名7019 1984(昭和59)年 開校 B-6
2 三角山公園 敷地の形から角山と呼ばれるようになりました。昔は「お天宮祭り」が行われたといわれています。今は公園として整備され、日清戦争・日露戦争から第二次世界大戦の戦士の戦没者の慰霊碑が建てられています。 D-4	2 清水地区石仏群 不動様の近くに、1784(天明4)年の地震様として地神様、神母様、釈迦尊、六地藏、二十三夜尊、大山遊の道標、三ヶ所権持菩薩など、地域の石造物が集まっています。川のな四ツ谷に供養費の石があるのも不思議ですが、かつては梅雨時に畑から野水と呼ばれる湧き水が溢れ、それを防ぐ水路が何本も掘られ、その水路に横がけられました。毎日まいりと初詣、9月の第1土曜日の祭礼が盛大に行われています。 D-4	2 望地安養の墓 この墓地为遠辺家の墓で、「村賢安養墓居士」と刻まれた石手の小さな墓石が玄室のものと推定は1849(慶永2)年。安養は、江戸時代の終わりの1847(文化14)年、前編と重役で苦しむむろを救おうと麻屋筋を計画して捕えられ、その後半で亡くなったといわれています。彼の「村賢」や「園」の文字には、玄室の寓意がある行動が示されています。また大きな墓石は子供の医師弘福のもので、田名村の村長として地蔵の発願に貢献しました。 B-7
3 田名中学校 田名5250-1 1947(昭和22)年 開校 D-4	3 地神様 この大きな石は相模川から背負われてきたものといわれ、石の表には「地神様」と刻まれています。地神様は、江戸時代の終わり頃に湧出したの神を祀る信仰の場で、地神調と呼ばれる神間によって建てられました。 D-2	3 観音堂 自治会館の左に観音堂が祀られています。この観音堂は聖観音といわれ、昔山に背負われて来たと伝えられています。堂の裏には、1761(宝暦11)年の徳名の供養塔である無縁塔などが並んでいます。 D-2
4 石神社 社は、東湯相模原八瀬川の四ツ谷交差点にあり、四ツ谷の守護神として信仰されています。境内には地神様、神母様、釈迦尊、六地藏、二十三夜尊、大山遊の道標、三ヶ所権持菩薩など、地域の石造物が集まっています。川のな四ツ谷に供養費の石があるのも不思議ですが、かつては梅雨時に畑から野水と呼ばれる湧き水が溢れ、それを防ぐ水路が何本も掘られ、その水路に横がけられました。毎日まいりと初詣、9月の第1土曜日の祭礼が盛大に行われています。 C-4	4 観音堂 (清水自治会館) 自治会館の左に観音堂が祀られています。この観音堂は聖観音といわれ、昔山に背負われて来たと伝えられています。堂の裏には、1761(宝暦11)年の徳名の供養塔である無縁塔などが並んでいます。 D-2	4 新田用水(鳥山山泉水) 1855(安政5)年、当時の領主平野(栃木県)鳥山浦によって年貢地蔵のため計画された新田開発用の用水です。しかし、この用水は完成まもなく1860(万延元)年の洪水で流出してしまいました。その後しばらく用水と新田は荒地化してしまいましたが、江成兵衛は自分の財産をつかい用水の改修と土手の修復を行い、久野原の新田開発を完成させました。 F-4
5 相模電気鉄道跡(跡地) 今から約90年前、東京の渋谷から世田谷、溝の口、鶴川、淵野辺、上溝、田名、愛川を結ぶ鉄道の計画がありました。が、関東大震災に襲われ中止されました。その後2回再開されましたが、1928(昭和3)年の経済不況の波を受け、1935(昭和10)年に元の地主に返還され、1944(昭和19)年に会社は解散しました。在名35.58基地付近(東湯相模原八瀬川を四ツ谷交差点から上溝に向かい、銀行を過ぎて左折した右側)に線路の敷設跡が残されています。 C-4	5 清水取水口 相模原幹線用水路は、田名の清水湧首工から当麻地区までの全長約5.1kmの用水路で、望地地区約18haと区麻地区約24haの水田のための農業用水路です。当初の取水口は、江戸時代に建設された鳥山用水の田名の海地区にあります。その後明治末期にその上流、田名の清水地区にも設けられました。1967(昭和42)年に清水下の自動車が完成し、取水口は現在の1ヶ所になりました。 D-2	5 新田用水(鳥山山泉水) 1855(安政5)年、当時の領主平野(栃木県)鳥山浦によって年貢地蔵のため計画された新田開発用の用水です。しかし、この用水は完成まもなく1860(万延元)年の洪水で流出してしまいました。その後しばらく用水と新田は荒地化してしまいましたが、江成兵衛は自分の財産をつかい用水の改修と土手の修復を行い、久野原の新田開発を完成させました。 F-4
6 国道129号 (上溝バイパス) 国道129号は、平野の国道134号と相模原市の国道16号(橋本五差路)を結び、延長31.5kmの県央を南北に走る大動脈です。新昭和規格が昭和55年5月に最終区段が完成し、国道129号全線が供用開始されました。また、4車線整備は、作の区間での完成により、平成2年度に全線が完成されました。 A-4	6 清水取水口 相模原幹線用水路は、田名の清水湧首工から当麻地区までの全長約5.1kmの用水路で、望地地区約18haと区麻地区約24haの水田のための農業用水路です。当初の取水口は、江戸時代に建設された鳥山用水の田名の海地区にあります。その後明治末期にその上流、田名の清水地区にも設けられました。1967(昭和42)年に清水下の自動車が完成し、取水口は現在の1ヶ所になりました。 D-2	6 新田用水(鳥山山泉水) 1855(安政5)年、当時の領主平野(栃木県)鳥山浦によって年貢地蔵のため計画された新田開発用の用水です。しかし、この用水は完成まもなく1860(万延元)年の洪水で流出してしまいました。その後しばらく用水と新田は荒地化してしまいましたが、江成兵衛は自分の財産をつかい用水の改修と土手の修復を行い、久野原の新田開発を完成させました。 F-4
7 メタセコイア白濁り 1994(平成6)年、相模原市では、遊路に親しみを持っていただくために、市内の15路線に遊路の樹木を植栽しました。全長813mの全線に遊路メタセコイアが植えられているため、「メタ」を地名の白濁りの「白濁」を結んで「メタセコイア白濁り」の愛称になりました。 A-3	7 徳本念仏尊 坂を下りはじめ、滝と清水に向かう道の分かれたところに、徳本行者の念仏尊があります。徳本は1758(宝暦8)年に肥田国(和歌山県)の白鳥に生まれ、25歳で仏門に入り、諸国を巡り各地に念仏を広めました。相模原市には晩年の1817(文化14)年11月に訪れています。 E-3	7 新田用水(鳥山山泉水) 1855(安政5)年、当時の領主平野(栃木県)鳥山浦によって年貢地蔵のため計画された新田開発用の用水です。しかし、この用水は完成まもなく1860(万延元)年の洪水で流出してしまいました。その後しばらく用水と新田は荒地化してしまいましたが、江成兵衛は自分の財産をつかい用水の改修と土手の修復を行い、久野原の新田開発を完成させました。 F-4
8 田名工業団地の出現 1955(昭和30)年、相模原市は「工場立市」の旗印を掲げて、工場誘致策を制定しました。田名地区にも工業団地の開発を計画し、土地の買収と団地造成を行いました。1963-64(昭和38-39)年に団地造成を行い、完了とともに三菱重工及び関連の工場が完成しました。1992(平成4)年には、50社を超えました。 B-2	8 おひのりの碑 伝説によれば、昔戦いに敗れ敵に連れられたお姫様の一行が、ここまで逃げたことでめでたきとめでたきと、村人によって尊られ、祀られたといわれています。これは、雨乞いの行事は反対の雨乞い降り続いた時、早く晴れるようにと願う天宮祭りの行事が行われたといわれています。 E-3	8 新田用水(鳥山山泉水) 1855(安政5)年、当時の領主平野(栃木県)鳥山浦によって年貢地蔵のため計画された新田開発用の用水です。しかし、この用水は完成まもなく1860(万延元)年の洪水で流出してしまいました。その後しばらく用水と新田は荒地化してしまいましたが、江成兵衛は自分の財産をつかい用水の改修と土手の修復を行い、久野原の新田開発を完成させました。 F-4
9 内山玄貞様の碑 1819(文政2)年に田名村葛輪に生まれ、聡明の尊高く鳥山愚庵林等の住職になり書生筆を習得しました。その後学問を志し江戸へ出て商家で書生として住み込み勉強に勤めました。天保の末、葛輪に帰り農家の子孫にも読み書き算盤を必書と考え、農業を習わかわら。自宅でも多くの子ども達に教えていました。1872(明治5)年の学制発令後も患えられない子ども達に教えていました。1867(明治元)年には教子達によって碑が建てられました。 A-2	9 馬頭観音 馬頭観音は、愛馬の事故を悼んで大正時代に建てられた観音様です。事故が起こりやすい坂道などには他の地区でも見られ、田名地区内におよそ60基あります。 E-4	9 新田用水(鳥山山泉水) 1855(安政5)年、当時の領主平野(栃木県)鳥山浦によって年貢地蔵のため計画された新田開発用の用水です。しかし、この用水は完成まもなく1860(万延元)年の洪水で流出してしまいました。その後しばらく用水と新田は荒地化してしまいましたが、江成兵衛は自分の財産をつかい用水の改修と土手の修復を行い、久野原の新田開発を完成させました。 F-4
10 金刀比羅宮 昔は一族の守護神として祀られていたものとされています。一般に金刀比羅宮は交通安全の神として信仰されています。現在は自治会が1月の第2日曜日(祭礼)に行われ、葛輪の家ではお札と牛支札を授けり自らの神棚に祀ります。祭りの日は、境内でくし引・餅つき・だんご焼きが行われ、地域住民の楽しみの日となっています。 A-2	10 馬頭観音 馬頭観音は、愛馬の事故を悼んで大正時代に建てられた観音様です。事故が起こりやすい坂道などには他の地区でも見られ、田名地区内におよそ60基あります。 E-4	10 新田用水(鳥山山泉水) 1855(安政5)年、当時の領主平野(栃木県)鳥山浦によって年貢地蔵のため計画された新田開発用の用水です。しかし、この用水は完成まもなく1860(万延元)年の洪水で流出してしまいました。その後しばらく用水と新田は荒地化してしまいましたが、江成兵衛は自分の財産をつかい用水の改修と土手の修復を行い、久野原の新田開発を完成させました。 F-4
11 観音堂(石神社) 田名2797番地の三角形の土地に、明治から昭和にかけて道路改良工事のために敷設していた石仏が集まりました。地蔵菩薩、六地藏、常夜尊、庚申塔、光明菩薩尊、馬頭観音、崇徳権持(日蓮戦争記念)などがあります。石造物の中には、5,000年以上前の縄文時代中期の遺物、石棒も保存されています。 A-1	11 稲荷神社(稲之内自治会館) 稲之内自治会館の隣に稲荷神社があります。この地は昔稲荷社の敷地でした。今は高影山の祠の中にお祭所跡と金毘羅様と一緒に祀られています。高影山は養蚕の神として信仰を集め、相模原市では、江戸時代の終わり頃に各地で盛んに行事が行われていました。 E-4	11 新田用水(鳥山山泉水) 1855(安政5)年、当時の領主平野(栃木県)鳥山浦によって年貢地蔵のため計画された新田開発用の用水です。しかし、この用水は完成まもなく1860(万延元)年の洪水で流出してしまいました。その後しばらく用水と新田は荒地化してしまいましたが、江成兵衛は自分の財産をつかい用水の改修と土手の修復を行い、久野原の新田開発を完成させました。 F-4
12 農業振興地域 市町村の農業振興地域整備計画により、農業を推進することが必要と定められた地域です。農業以外での土地利用が厳しく制限されています。 A-1	12 稲荷神社(稲之内自治会館) 稲之内自治会館の隣に稲荷神社があります。この地は昔稲荷社の敷地でした。今は高影山の祠の中にお祭所跡と金毘羅様と一緒に祀られています。高影山は養蚕の神として信仰を集め、相模原市では、江戸時代の終わり頃に各地で盛んに行事が行われていました。 E-4	12 新田用水(鳥山山泉水) 1855(安政5)年、当時の領主平野(栃木県)鳥山浦によって年貢地蔵のため計画された新田開発用の用水です。しかし、この用水は完成まもなく1860(万延元)年の洪水で流出してしまいました。その後しばらく用水と新田は荒地化してしまいましたが、江成兵衛は自分の財産をつかい用水の改修と土手の修復を行い、久野原の新田開発を完成させました。 F-4
13 相模水道緑道 1887(明治20)年に敷設された相模原市の横浜水道緑道は、南上り約47目から中央区田名内までの12.2kmを、平均12mの幅員で市域を横断しています。この緑道は、市民への有効利用を図るため、1982(昭和57)年に横浜市と「横浜水道道の使用に関する協定」を結び整備されました。 D-3	13 稲荷神社(稲之内自治会館) 稲之内自治会館の隣に稲荷神社があります。この地は昔稲荷社の敷地でした。今は高影山の祠の中にお祭所跡と金毘羅様と一緒に祀られています。高影山は養蚕の神として信仰を集め、相模原市では、江戸時代の終わり頃に各地で盛んに行事が行われていました。 E-4	13 新田用水(鳥山山泉水) 1855(安政5)年、当時の領主平野(栃木県)鳥山浦によって年貢地蔵のため計画された新田開発用の用水です。しかし、この用水は完成まもなく1860(万延元)年の洪水で流出してしまいました。その後しばらく用水と新田は荒地化してしまいましたが、江成兵衛は自分の財産をつかい用水の改修と土手の修復を行い、久野原の新田開発を完成させました。 F-4
14 田名北小学校 田名1932-1 1978(昭和53)年 開校 D-3	14 稲荷神社(稲之内自治会館) 稲之内自治会館の隣に稲荷神社があります。この地は昔稲荷社の敷地でした。今は高影山の祠の中にお祭所跡と金毘羅様と一緒に祀られています。高影山は養蚕の神として信仰を集め、相模原市では、江戸時代の終わり頃に各地で盛んに行事が行われていました。 E-4	14 新田用水(鳥山山泉水) 1855(安政5)年、当時の領主平野(栃木県)鳥山浦によって年貢地蔵のため計画された新田開発用の用水です。しかし、この用水は完成まもなく1860(万延元)年の洪水で流出してしまいました。その後しばらく用水と新田は荒地化してしまいましたが、江成兵衛は自分の財産をつかい用水の改修と土手の修復を行い、久野原の新田開発を完成させました。 F-4
15 田名郷内団地 平成3年竣工、平成5年完成 3棟120戸 D-3	15 稲荷神社(稲之内自治会館) 稲之内自治会館の隣に稲荷神社があります。この地は昔稲荷社の敷地でした。今は高影山の祠の中にお祭所跡と金毘羅様と一緒に祀られています。高影山は養蚕の神として信仰を集め、相模原市では、江戸時代の終わり頃に各地で盛んに行事が行われていました。 E-4	15 新田用水(鳥山山泉水) 1855(安政5)年、当時の領主平野(栃木県)鳥山浦によって年貢地蔵のため計画された新田開発用の用水です。しかし、この用水は完成まもなく1860(万延元)年の洪水で流出してしまいました。その後しばらく用水と新田は荒地化してしまいましたが、江成兵衛は自分の財産をつかい用水の改修と土手の修復を行い、久野原の新田開発を完成させました。 F-4

田名の歴史 (Aコース)	田名の歴史 (Bコース)	田名の歴史 (Cコース)
1 田名八幡宮 水原田名1-8-28 田名八幡宮は、平安時代のはじめ、798(延暦17)年から天地大神様が祀られていたといわれています。その後、江戸時代に入った1649(慶安2)年に八幡宮を本社にあらため、將軍家光から6石1斗の社格を安堵されたといわれています。例年1月6日に行われる「的景」は相模原市の無形文化財に指定されています。また1月1日には大祭といわれる本社八幡宮のお祭り行われます。1974(昭和49)年に復活された獅子舞が今も奉納されています。 F-4	1 不動尊 千葉原成田山にある成田不動(新勝寺)をお祀りしたといわれる不動尊です。不動とは不動明王のごことで、仏様の人、大目如來を尊を思はしめるため稲の圃に変わったものといわれています。 D-2	1 田名の歴史 (Cコース) 1 新田小学校 田名7019 1984(昭和59)年 開校 B-6
2 三角山公園 敷地の形から角山と呼ばれるようになりました。昔は「お天宮祭り」が行われたといわれています。今は公園として整備され、日清戦争・日露戦争から第二次世界大戦の戦士の戦没者の慰霊碑が建てられています。 D-4	2 清水地区石仏群 不動様の近くに、1784(天明4)年の地震様として地神様、神母様、釈迦尊、六地藏、二十三夜尊、大山遊の道標、三ヶ所権持菩薩など、地域の石造物が集まっています。川のな四ツ谷に供養費の石があるのも不思議ですが、かつては梅雨時に畑から野水と呼ばれる湧き水が溢れ、それを防ぐ水路が何本も掘られ、その水路に横がけられました。毎日まいりと初詣、9月の第1土曜日の祭礼が盛大に行われています。 D-4	2 望地安養の墓 この墓地为遠辺家の墓で、「村賢安養墓居士」と刻まれた石手の小さな墓石が玄室のものと推定は1849(慶永2)年。安養は、江戸時代の終わりの1847(文化14)年、前編と重役で苦しむむろを救おうと麻屋筋を計画して捕えられ、その後半で亡くなったといわれています。彼の「村賢」や「園」の文字には、玄室の寓意がある行動が示されています。また大きな墓石は子供の医師弘福のもので、田名村の村長として地蔵の発願に貢献しました。 B-7
3 田名中学校 田名5250-1 1947(昭和22)年 開校 D-4	3 地神様 この大きな石は相模川から背負われてきたものといわれ、石の表には「地神様」と刻まれています。地神様は、江戸時代の終わり頃に湧出したの神を祀る信仰の場で、地神調と呼ばれる神間によって建てられました。 D-2	3 観音堂 自治会館の左に観音堂が祀られています。この観音堂は聖観音といわれ、昔山に背負われて来たと伝えられています。堂の裏には、1761(宝暦11)年の徳名の供養塔である無縁塔などが並んでいます。 D-2
4 石神社 社は、東湯相模原八瀬川の四ツ谷交差点にあり、四ツ谷の守護神として信仰されています。境内には地神様、神母様、釈迦尊、六地藏、二十三夜尊、大山遊の道標、三ヶ所権持菩薩など、地域の石造物が集まっています。川のな四ツ谷に供養費の石があるのも不思議ですが、かつては梅雨時に畑から野水と呼ばれる湧き水が溢れ、それを防ぐ水路が何本も掘られ、その水路に横がけられました。毎日まいりと初詣、9月の第1土曜日の祭礼が盛大に行われています。 C-4	4 観音堂 (清水自治会館) 自治会館の左に観音堂が祀られています。この観音堂は聖観音といわれ、昔山に背負われて来たと伝えられています。堂の裏には、1761(宝暦11)年の徳名の供養塔である無縁塔などが並んでいます。 D-2	4 新田用水(鳥山山泉水) 1855(安政5)年、当時の領主平野(栃木県)鳥山浦によって年貢地蔵のため計画された新田開発用の用水です。しかし、この用水は完成まもなく1860(万延元)年の洪水で流出してしまいました。その後しばらく用水と新田は荒地化してしまいましたが、江成兵衛は自分の財産をつかい用水の改修と土手の修復を行い、久野原の新田開発を完成させました。 F-4
5 相模電気鉄道跡(跡地) 今から約90年前、東京の渋谷から世田谷、溝の口、鶴川、淵野辺、上溝、田名、愛川を結ぶ鉄道の計画がありました。が、関東大震災に襲われ中止されました。その後2回再開されましたが、1928(昭和3)年の経済不況の波を受け、1935(昭和10)年に元の地主に返還され、1944(昭和19)年に会社は解散しました。在名35.58基地付近(東湯相模原八瀬川を四ツ谷交差点から上溝に向かい、銀行を過ぎて左折した右側)に線路の敷設跡が残されています。 C-4	5 清水取水口 相模原幹線用水路は、田名の清水湧首工から当麻地区までの全長約5.1kmの用水路で、望地地区約18haと区麻地区約24haの水田のための農業用水路です。当初の取水口は、江戸時代に建設された鳥山用水の田名の海地区にあります。その後明治末期にその上流、田名の清水地区にも設けられました。1967(昭和42)年に清水下の自動車が完成し、取水口は現在の1ヶ所になりました。 D-2	5 新田用水(鳥山山泉水) 1855(安政5)年、当時の領主平野(栃木県)鳥山浦によって年貢地蔵のため計画された新田開発用の用水です。しかし、この用水は完成まもなく1860(万延元)年の洪水で流出してしまいました。その後しばらく用水と新田は荒地化してしまいましたが、江成兵衛は自分の財産をつかい用水の改修と土手の修復を行い、久野原の新田開発を完成させました。 F-4
6 国道129号 (上溝バイパス) 国道129号は、平野の国道134号と相模原市の国道16号(橋本五差路)を結び、延長31.5kmの県央を南北に走る大動脈です。新昭和規格が昭和55年5月に最終区段が完成し、国道129号全線が供用開始されました。また、4車線整備は、作の区間での完成により、平成2年度に全線が完成されました。 A-4	6 清水取水口 相模原幹線用水路は、田名の清水湧首工から当麻地区までの全長約5.1kmの用水路で、望地地区約18haと区麻地区約24haの水田のための農業用水路です。当初の取水口は、江戸時代に建設された鳥山用水の田名の海地区にあります。その後明治末期にその上流、田名の清水地区にも設けられました。1967(昭和42)年に清水下の自動車が完成し、取水口は現在の1ヶ所になりました。 D-2	6 新田用水(鳥山山泉水) 1855(安政5)年、当時の領主平野(栃木県)鳥山浦によって年貢地蔵のため計画された新田開発用の用水です。しかし、この用水は完成まもなく1860(万延元)年の洪水で流出してしまいました。その後しばらく用水と新田は荒地化してしまいましたが、江成兵衛は自分の財産をつかい用水の改修と土手の修復を行い、久野原の新田開発を完成させました。 F-4
7 メタセコイア白濁り 1994(平成6)年、相模原市では、遊路に親しみを持っていただくために、市内の15路線に遊路の樹木を植栽しました。全長813mの全線に遊路メタセコイアが植えられているため、「メタ」を地名の白濁りの「白濁」を結んで「メタセコイア白濁り」の愛称になりました。 A-3	7 徳本念仏尊 坂を下りはじめ、滝と清水に向かう道の分かれたところに、徳本行者の念仏尊があります。徳本は1758(宝暦8)年に肥田国(和歌山県)の白鳥に生まれ、25歳で仏門に入り、諸国を巡り各地に念仏を広めました。相模原市には晩年の1817(文化14)年11月に訪れています。 E-3	7 新田用水(鳥山山泉水) 1855(安政5)年、当時の領主平野(栃木県)鳥山浦によって年貢地蔵のため計画された新田開発用の用水です。しかし、この用水は完成ま

田名散策マップ

歴史探訪・水緑ふれあい

相模原市「地域活性化事業交付金」
を使って作成しました。

- 田名の歴史コース**
- Aコース (7,250m)**
 - Bコース (7,400m)**
 - Cコース (7,200m)**
 - Dコース (5,300m)**
- 水・緑ふれあいコース**
- Aコース (6,650m)**
 - Bコース (9,800m)**

- 田名の歴史 (Aコース)**
- 田名まちづくりセンター(田名公民館)
 - 三角山公園
 - 田名中学校
 - 石神社
 - 相武電気鉄道計画跡地
 - 国道129号(上清バイパス)
 - メタセ白雨通り
 - 田名工業団地
 - 内山玄真翁の碑
 - 金刀比羅宮
 - 葛輪地区石造物群
 - 農業振興地域
 - 横浜水道道緑道
 - 田名北小学校
 - 田名堀之内団地
 - 田名中学校
 - 田名まちづくりセンター(田名公民館)

- 田名の歴史 (Bコース)**
- 田名まちづくりセンター(田名公民館)
 - 田名中学校
 - 横浜水道道緑道
 - 田名北小学校
 - 田名堀之内団地
 - 不動様
 - 清水地区石仏群
 - 地神塔
 - 観音堂(清水自治会館)
 - 清水取水口
 - 第六天
 - 徳本念仏塔
 - おひのりの碑
 - 秋葉大権現
 - 滝坂
 - 宗祐寺
 - 滝の渡し
 - 龍の甲石(滝自治会館)
 - 江成久兵衛像

- 田名の歴史 (Cコース)**
- 相模川ふれあい科学館
 - 田名八幡宮
 - ばんぼ石(田名八幡宮内)
 - 新堀用水路(旧烏山用水)
 - 新堀用水散策路
 - 稲荷社
 - 江成久兵衛土手
 - 水郷田名団地
 - 火の坂
 - 馬頭観音
 - 烏山領制札場旧跡
 - 菫影山(堀之内自治会館)
 - 田名こどもセンター
 - 大杉公園
 - 相模田名名家資料館
 - 田名氏の屋敷跡
 - 田名消防分署
 - 田名小学校
 - 田名まちづくりセンター(田名公民館)

- 田名の歴史 (Dコース)**
- 田名まちづくりセンター(田名公民館)
 - 田名中学校
 - 石神社
 - 新宿小学校
 - 渡辺玄泰の墓
 - 稲荷社
 - 地藏様
 - 観音堂(新宿自治会館)
 - しおだテクノパイル公園
 - 天地社
 - 舟守地藏
 - 八瀬川遊歩道
 - 横浜水道道緑道
 - 県立相模田名高校
 - 田名中学校
 - 田名まちづくりセンター(田名公民館)

- 田名の歴史 (Dコース)**
- 田名まちづくりセンター(田名公民館)
 - 田名小学校
 - 田名消防分署
 - 二十三夜塔
 - 二十六夜塔
 - 山王社
 - 地神塔
 - 南光寺
 - 馬のつくる場
 - 稲荷社(望地自治会館)
 - 金井家先祖の墓
 - 坂の上の石造物
 - 万平穴
 - 弁天どぶ
 - 望地弁財天
 - 望地河原開田記念碑
 - 望地キャンプ場
 - 遊歩道
 - 望地の渡し

- 水・緑ふれあい (Aコース)**
- 田名バスターミナル
 - 田名中学校
 - 横浜水道道緑道
 - 田名北小学校
 - 田名堀之内団地
 - 田名西部土改良区
 - 徳本念仏塔
 - 山王坂
 - 滝の渡し
 - 相模川
 - 桜並木
 - 花と芝生の広場
 - 高田橋
 - 久所の渡し
 - 相模川散策路
 - 望地キャンプ場
 - 望地の渡し
 - 南光寺
 - 田名バスターミナル

- 水・緑ふれあい (Bコース)**
- 田名バスターミナル
 - 田名中学校
 - 横浜水道道緑道
 - 県立相模田名高校
 - 田名南ふれあい広場
 - 八瀬川遊歩道
 - 堀田さくら橋
 - 田名堀田団地
 - 八瀬川遊歩道
 - 向得寺
 - 旧石器ハテナ館
 - 史跡田名向原遺跡公園
 - 相模川散策路
 - 岩切り場
 - 相模川散策路
 - 望地キャンプ場
 - 望地の渡し
 - 南光寺
 - 田名消防分署
 - 田名バスターミナル



凡例

公園・広場	メタセ白雨通り
学校	横浜水道道緑道
子育て・福祉施設	水辺遊歩道
バス停	桜並木
景観眺望ポイント	

0 100 200 300 400 500m

地形図(平成26年2月編集)